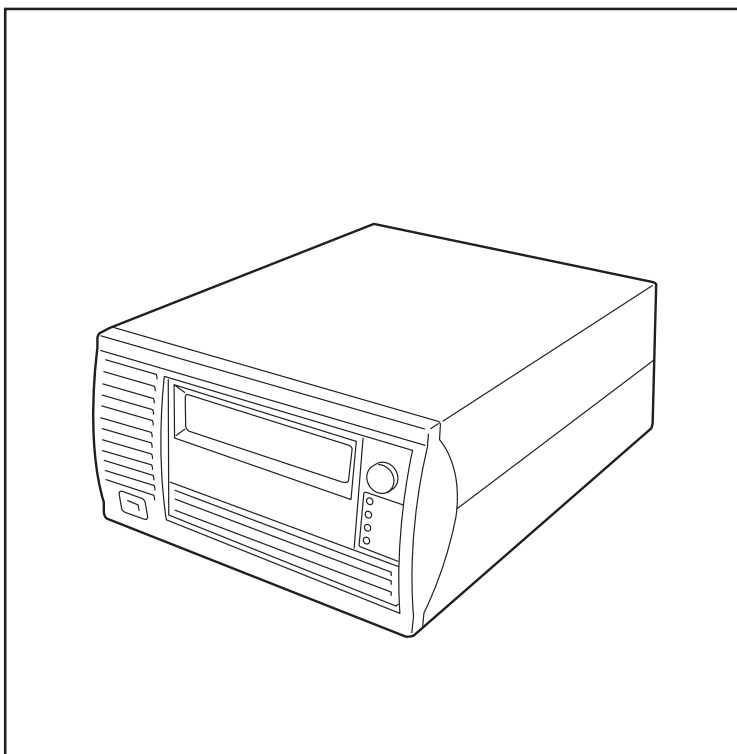




N8160-46 外付LTO 取扱説明書

856-850237-A
2002年 6月 初版

ご注意

製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
本書は熟読の上、大切に保管してください。

商標について

Linear Tape-Open、LTO、Ultrium Tape DriveはHewlett-Packard CompanyおよびSeagate Technologyの米国における商標です。

Microsoftおよび、Windows、Windows NT、Windowsロゴは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波適合品

本装置は通商産業省通知の家電、汎用高調波抑制対策ガイドラインに適合しています。

海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

⚠ 使用上のご注意 ～必ずお読みください～

本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全にかかわる表示について

本書には装置のどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについての説明が記載されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。



警告

指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



注意

指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例) (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近く絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例) (接触禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例) (プラグを抜け)

(本書での表示例)

注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
	指定外のコンセントに差し込まない	注意
	電源は指定された電圧、電源の壁付きコンセントをお使いください。指定以外の電源を使うと火災や漏電の原因となります。	

本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
---	-------------------	---	--------------------------------------

行為の強制

	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
---	--	---	--

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

 警告	
	人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や器機、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じて当社はいかなる責任も負いかねます。
	煙や異臭、異音が生じたまま使用しない 万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに電源ON/OFFボタンをOFFにして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。
	針金や金属片を差し込まない 通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

 注意	
	海外で使用しない 本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。
	装置内に水や異物を入れない 装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

電源・電源コードに関する注意事項



警告



ぬれた手で電源プラグを持たない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



注意



指定以外のコンセントに差し込まない

電源は指定された電圧、電源の壁付きコンセントをお使いください。指定以外の電源を使うと火災や漏電の原因となります。

また、延長コードが必要となるような場所には設置しないでください。本装置の電源仕様に合っていないコードに接続すると、コードが過熱して火災の原因となります。



たこ足配線にしない

コンセントに定格以上の電流が流れることによって、過熱して火災の原因となるおそれがあります。



中途半端に差し込まない

電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



指定以外の電源コードを使わない

本装置に添付されている電源コード以外のコードを使わないでください。電源コードに定格以上の電流が流れると、火災の原因となるおそれがあります。

また、電源コードの破損による感電や火災を防止するために次のような行為を行わないでください。

- コード部分を引っ張らない。
- 電源コードを折り曲げない。
- 電源コードをねじらない。
- 電源コードを束ねない。
- 電源コードをステーブラ等で固定しない。
- 損傷した電源コードを使わない(損傷した電源コードはすぐ同じ規格の電源コードと取り替えてください。交換に関しては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください)。
- 電源コードをはさまない。
- 電源コードに薬品類をかけない。
- 電源コードにものを載せない。
- 電源コードを改造・加工・修復しない。

設置・移動・保管・接続に関する注意事項

注意



指定以外の場所に設置しない

本装置を次に示すような場所や本書で指定している場所以外に置かないでください。火災の原因となるおそれがあります。



ファンや通気孔をふさがない

本装置の背面にあるファンや前面の通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



プラグを差し込んだままインターフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

インタフェースケーブルの取り付け／取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタにで触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。



指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、NECが指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。

お手入れに関する注意事項



警告



自分で分解・修理・改造はしない

本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。



プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、本装置の電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。

また、電源プラグはときどき抜いて、乾いた布でほこりやゴミをよくふき取ってください。ほこりがたまったら、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



注意



中途半端に取り付けない

電源コードやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

注意



カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。



巻き込み注意

本装置の動作中は背面にある冷却用ファンの部分に手や髪の毛を近づけないでください。手をはさまれたり、髪の毛が巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。



雷がなったら触らない

雷が発生しそうなときは電源プラグをコンセントから抜いてください。また電源プラグを抜く前に、雷が鳴りだしたら、ケーブル類も含めて装置には触れないでください。火災や感電の原因となります。



ペットを近づけない

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。



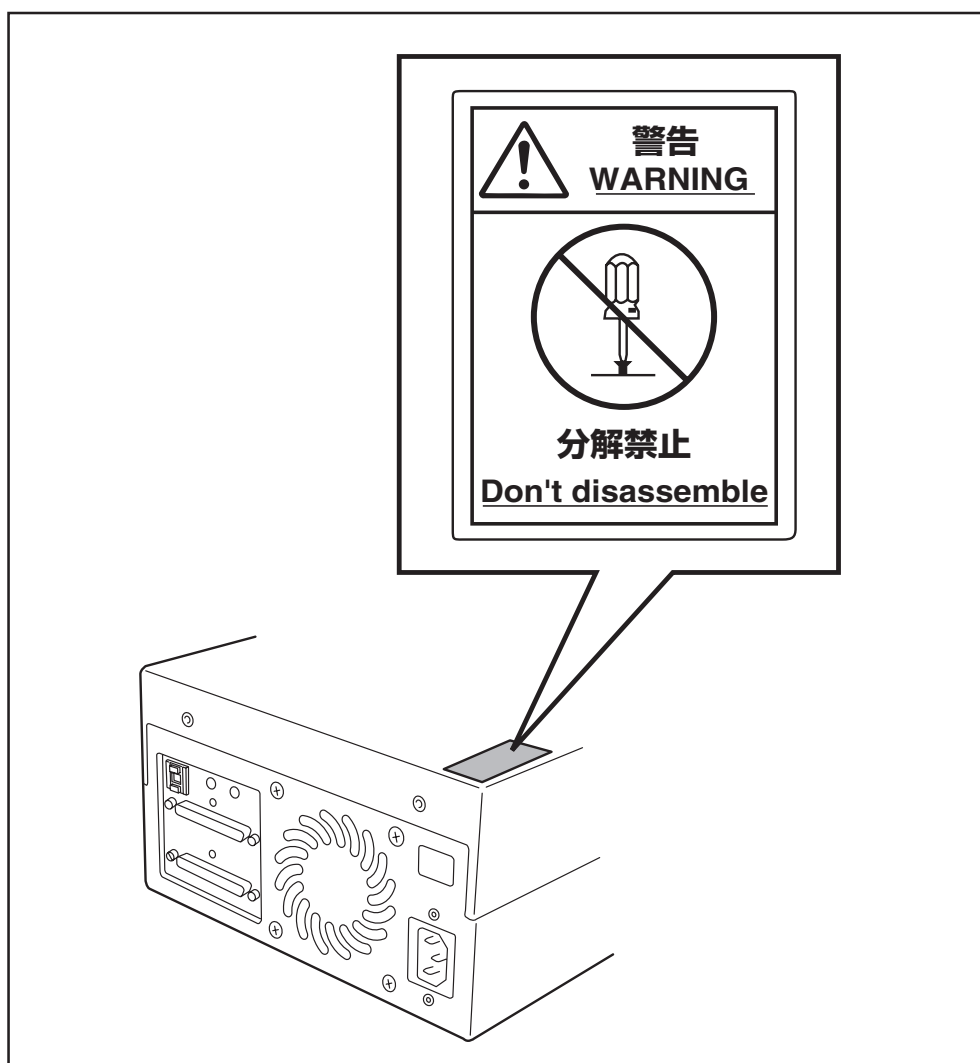
近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない

本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

警告ラベルについて

本装置には「分解禁止」の警告ラベルが貼り付けられています。

これは本装置を分解や改造することによる、火災や感電の危険性を常にお客様に意識していただくためのものです。ラベルをはがしたり、汚したりしないでください。もし、このラベルが貼り付けられていない場合やはがれかかっている場合、汚れなどで判読できない状態である場合は販売店にご連絡ください。



目次

⚠ 使用上のご注意 ～必ずお読みください～	i
安全にかかわる表示について	i
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容	ii
安全上のご注意	iii
全般的な注意事項	iii
電源・電源コードに関する注意事項	iv
設置・移動・保管・接続に関する注意事項	v
お手入れに関する注意事項	vi
運用中の注意事項	vii
警告ラベルについて	viii
はじめに	xi
本書の構成について	xii
本文中の記号について	xiii
第1章 外付LTOについて	1
外付LTOの概要	1
梱包箱の中身	2
各部の名称と機能	3
装置前面	4
装置背面	4
LED表示	5
取り扱い上の注意	6
本体について	6
データカートリッジについて	6
バックアップソフト使用のご注意	6
装置の譲渡と廃棄について	7
第2章 セットアップ	9
Step 1 SCSI IDの設定	9
Step 2 ケーブルの接続	10
Step 3 BIOSの設定	12

第3章 使用方法	13
電源のON/OFF	13
データカートリッジの挿入	14
データカートリッジの取り外し	15
第4章 データカートリッジ	17
カートリッジについて	17
カートリッジ(EF-2424)	18
クリーニングカートリッジ(EF-3237Q)	18
ラベル	19
ライトプロテクト(書き込み禁止スイッチ)	20
取り扱い上の注意事項	21
使用上の注意事項	21
一般的注意事項	21
使用禁止基準	21
寿 命	22
重要なデータの保存について	22
データの3世代管理について	23
データカートリッジの保管について	23
第5章 日常の保守	25
クリーニング	25
本体のクリーニング	25
ヘッドの清掃	25
輸送について	26
付録A 仕 様	27
装置本体	27
データカートリッジ	28
付録B 運用状況お客様記入シート	29
付録C トラブルシューティング チェックリスト	30

はじめに

N8160-46 外付LTOは、Express5800シリーズのサーバ／ワークステーションで使用できる外付型のテープバックアップ装置です。

本書は、本装置の取り扱いに関する手引き書です。本装置の取り付けや日常の取り扱い、保守をする際にご覧ください。

また、「故障かな?」を思ったときにもご覧ください。

本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管しておいてください。

本書の構成について

本書の構成と各章の概略について説明します。本装置に関することで知りたいことがあるときなどにご利用ください。

第1章 外付LTOについて

本装置の特長、ならびに梱包内容や各部の名称について説明しています。また、取り扱いや保管の際の注意事項が記載されています(装置を安全に取り扱うための注意事項については巻頭の説明をご覧ください)。

第2章 セットアップ

本装置を基本処理装置と接続して、使用できる状態にするまでの手順について順を追って説明しています。手順に従って正しく取り付けてください。

第3章 使用方法

本装置の電源をON/OFFにする方法やデータカートリッジをセットする方法について説明しています。

第4章 データカートリッジ

本装置で使用するデータカートリッジの取り扱い方法や取り扱い上の注意事項について説明しています。

第5章 日常の保守

常にベストな状態で本装置を使用するためのクリーニングの方法や装置の移動・保管の際の注意事項について説明しています。

付録A 仕様

装置本体とデータカートリッジの仕様が記載されています。

付録B 運用状況お客様記入シート

装置本体やデータカートリッジなどの使用状況や取り付けているシステムの構成情報を記入するメモ欄です。記入した内容は保守や修理の際に有用な情報となります。ご利用ください。

付録C トラブルシューティングチェックリスト

本装置が正しく動作しなくなったときは、故障を疑う前にまずここで示すチェックリストの内容について確認してください。それでも正しく動作しないときは、保守サービス会社に保守を依頼してください。

本文中の記号について

本文中では、次の記号を使って運用上の注意やヒントを示しています(安全上の注意事項に関する記号については巻頭の説明をご覧ください)。



装置の取り扱いやソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



知っておくと役に立つ情報や便利なことなどを示します。

~Memo~

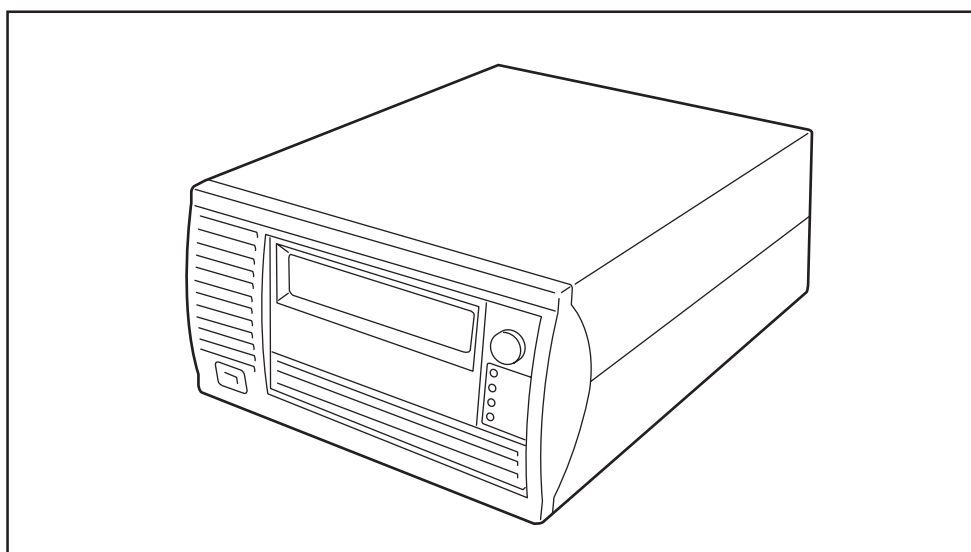
第1章 外付LTOについて

N8160-46 外付LTOの取り付けや運用の前に知っておいていただきたいことについて説明します。

外付LTOの概要

N8160-46 外付LTOは、高性能/大容量のデータ記憶装置です。本装置は、ファイルの検査やアーカイブだけでなく、無人バックアップを実行するように設計されており、次の機能を備えています。

- カートリッジあたり100GBの記憶容量(2:1圧縮時には200GB)
- 15MB/秒のデータ転送速度(2:1圧縮時には30MB)
- 最大80MB/秒のバースト・データ転送速度

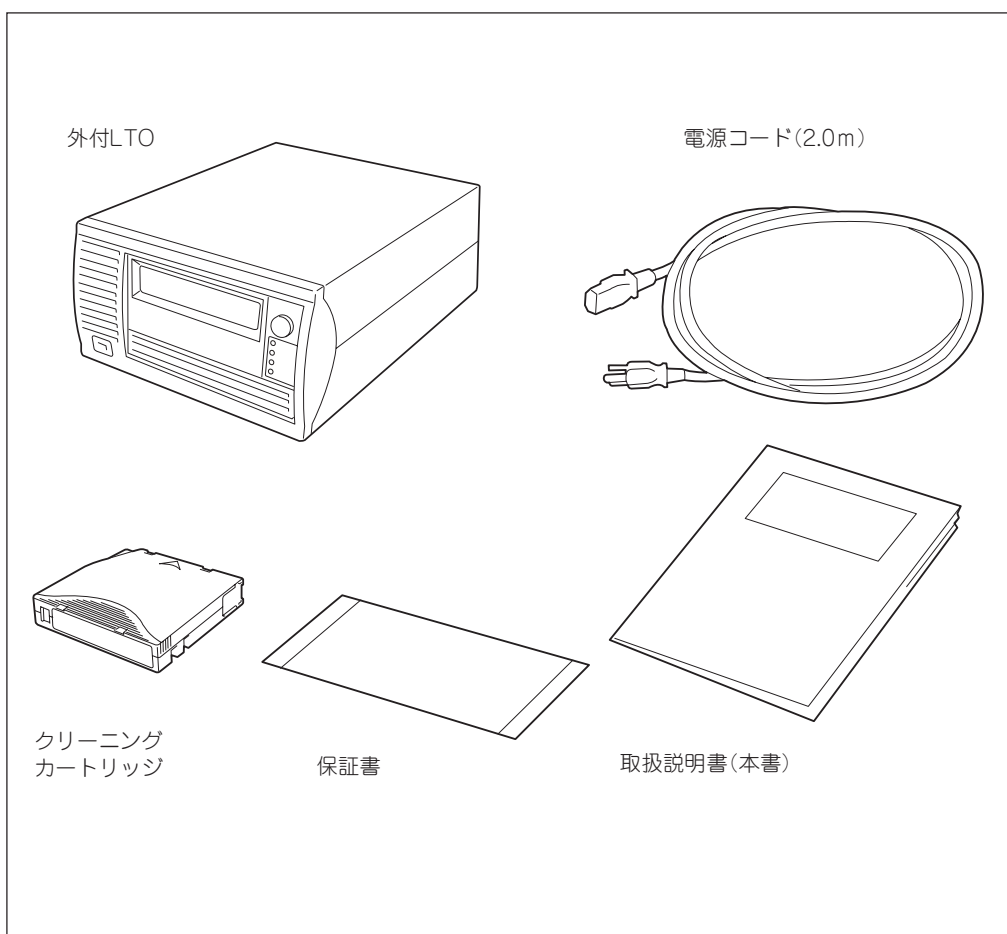


梱包箱の中身

箱を開けて、まず必要な部品が揃っていることを確認してください。万一、足りないものがあったり、破損しているものがあったりしたときは、お買い求めの販売店までご連絡ください。



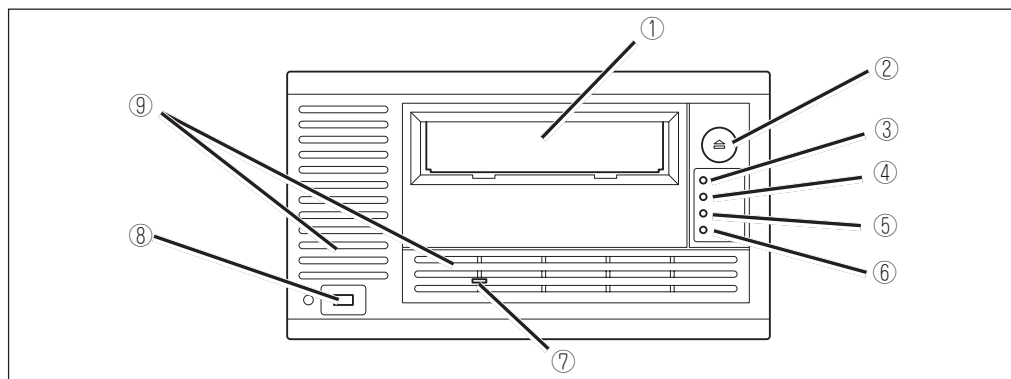
- 「保証書」は大切に保管しておいてください。修理の際に必要となります。
- 梱包材は大切に保管しておいてください。本装置の輸送の際に使用します。



各部の名称と機能

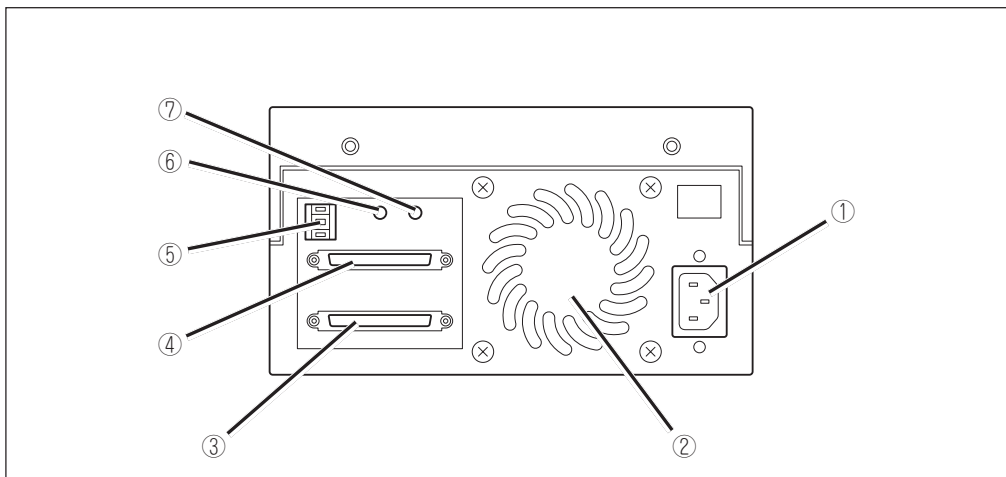
本装置の各部の名称と機能について説明します。

装置前面



- ① カートリッジ挿入口
カートリッジを挿入するスロットです。
- ② イジェクトボタン
本装置内に挿入されたカートリッジを取り出すときに押します。
- ③ ステータスLED
- ④ ドライブエラーLED
- ⑤ テープエラーLED
- ⑥ クリーニングLED
- ⑦ リセットボタン
- ⑧ 電源ON／OFFボタン
本装置の電源をオン／オフするボタンです。
- ⑨ 通風孔
装置内を冷却するために空気を通す孔です。

装置背面



① 電源コネクタ

本装置に電源を供給するコネクタです。
添付の電源コードを差し込みます。

② ファン

装置内部の冷却ファンです。

重要 | ここで示すスイッチ以外の設定を変更したり、説明していないコネクタにケーブルを接続したりしないでください。また、その他の部品にも触れないよう注意してください。

③ SCSI INコネクタ

サーバ/ワークステーションなどの基本処理装置からのSCSIケーブルを接続します。

④ SCSI OUTコネクタ

本装置と他のSCSIデバイスを接続する場合にはこのコネクタにSCSI中継ケーブルを接続してください。本装置がホストから最遠端になる場合は何も接続しないでください。

- 重要** |
- 基本処理装置からのSCSIケーブルはSCSI OUTコネクタに接続しないでください。エラーの原因となります。
 - 本装置は、SCSI OUTコネクタに何も接続されていないと自動的に終端を有効に設定します。本装置が最遠端になっても終端抵抗を接続しないでください。

⑤ SCSI ID設定スイッチ

本装置のSCSI IDを設定するスイッチです。
出荷時は「0」に設定されています。

⑥ Act TERM LED

⑦ FUN/PWR Fault LED

LED 表示

本装置のLEDについて説明します。

装置前面

- ステータスLED (緑色)
 - 点灯：正常に使用可能。
 - 消灯：電源がOFF。または自己診断中にエラーが発生。
 - 点滅：動作中。
- ドライブエラーLED (黄色)
 - 消灯：エラーなし。
 - 点滅：ドライブのハードウェアエラーを検出。
- テープエラーLED (黄色)
 - 消灯：エラーなし。
 - 点滅：外付LTOに挿入されているカートリッジでエラーを検出。
- クリーニングLED (黄色)
 - 点灯：クリーニングカートリッジを使用中。
 - 消灯：クリーニング不要。
 - 点滅：クリーニングが必要。クリーニングを行ってください。

クリーニング方法については25ページを参照してください。



本装置でエラーが発生した場合には30ページのトラブルシューティングチェックリストを参照して処置してください。それでも問題が解決されない場合には、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

装置背面

- ACT TERM LED
 - 点灯：本装置でのターミネーション(終端)が有効になっている。
 - 消灯：本装置でのターミネーションが無効になっている。
- FAN/PWR FAULT LED
 - 点灯：ファンまたは電源でエラーを検出。
 - 消灯：エラーなし。

取り扱い上の注意

本装置を正しく動作させるために次の注意事項を守ってください。

本体について

- 本装置背面には冷却ファンが取り付けられています。ファンをふさいだり、風通しの悪い場所では使用しないでください。また、本装置を極端に高温な場所、温度変化の激しい場所などで保管および使用しないでください。
- 本装置は精密な電子部品でできています。衝撃を加えたり、振動の加わる場所で保管および使用したりしないでください。
- 薬品の蒸気が発散している空気中や薬品に触れる場所で保管および使用しないでください。
- 本装置の電源をOFFにする前にデータカートリッジを取り出してください。
- 本装置に電源を入れたまま移動および輸送をしないでください。
- 本装置の上に重いものを置いた状態で保管および使用しないでください。
- 窓、ファン、およびエアコンの近くまたは通路など空気が動くところに置かないでください。
- 本装置を「縦置き」にして使用しないでください。
- むやみにスイッチを押したり、押し続けたりしないでください。

データカートリッジについて

- データカートリッジは当社製LTO DATA CARTRIDGE (EF-2424)をご使用ください。当社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーの原因となる場合があります。
- クリーニングカートリッジは当社製LTO CLEANING CARTRIDGE Type I(EF-3237Q)をご使用ください。
- その他の注意事項については4章を参照してください。

バックアップソフト使用のご注意

NECのWeb情報ページである「[8番街](<http://nec8.com>)」の「ケアサポート」-「テクニカル情報」-「テクニカルガイド」-「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあるバックアップ装置の<バックアップ装置対応ソフトウェア>を参照し、使用するバックアップソフトの対応状況を確認してから使用してください。

ソフト対応状況に関するお問い合わせは、以下のe-mailアドレスでお受けいたします。

お問い合わせ先：webmaster@ace.comp.nec.co.jp

装置の譲渡と廃棄について

- 本装置ならびに消耗品、付属品を廃棄の際は、各自治体の廃棄方法に従ってください。
- 本装置を譲渡する場合は、本書を含むすべてのものを譲渡してください。

～Memo～

第2章 セットアップ

N8160-46 外付LTOをサーバやワークステーションなどの基本処理装置に接続する手順について説明します。

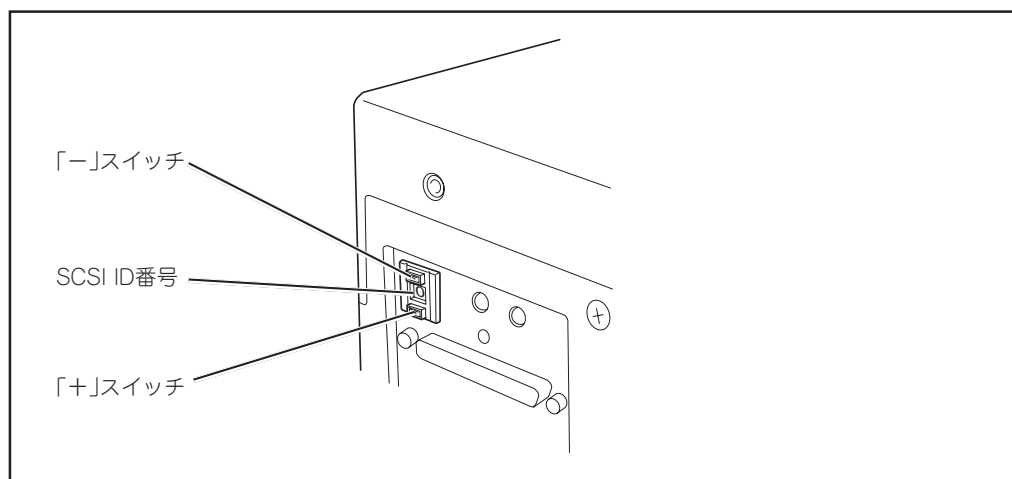
Step 1 SCSI IDの設定

接続する基本処理装置のSCSIデバイス構成に合わせて本装置のSCSI IDの設定をします。設定は本装置背面にあるSCSI ID設定スイッチを使います。複数台の周辺装置と接続するときは、SCSI IDが重ならないように設定してください。

上側にあるスイッチ「－」を押すごとに中央の数字(設定するSCSI IDを示す)が1つずつ小さくなります(「0」の次は「15」に戻ります)。下側のスイッチ「＋」を押すごとに数字は1つずつ大きくなります(「15」の次は「0」に戻ります)。出荷設定値は「0」に設定されています。



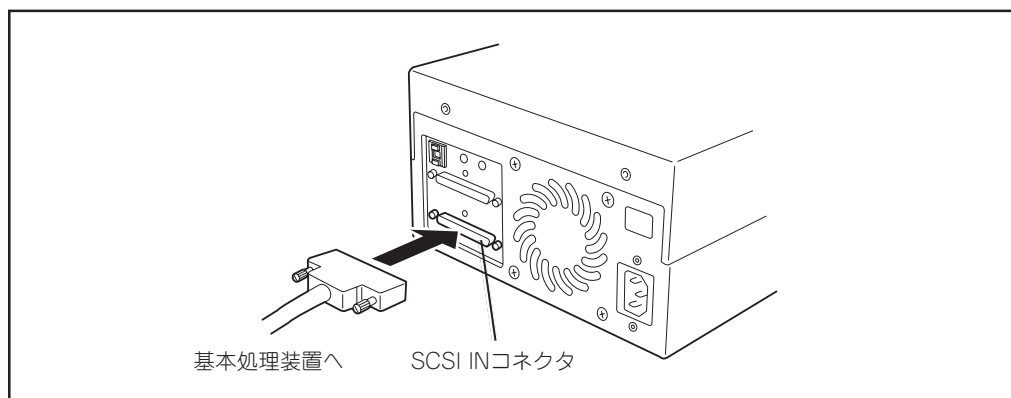
- スイッチの設定は本装置の電源をOFFにしてから変更してください。ONの状態でスイッチを操作しても設定は変更できません。また、故障の原因となります。
- SCSI ID「7」以外に設定してください。



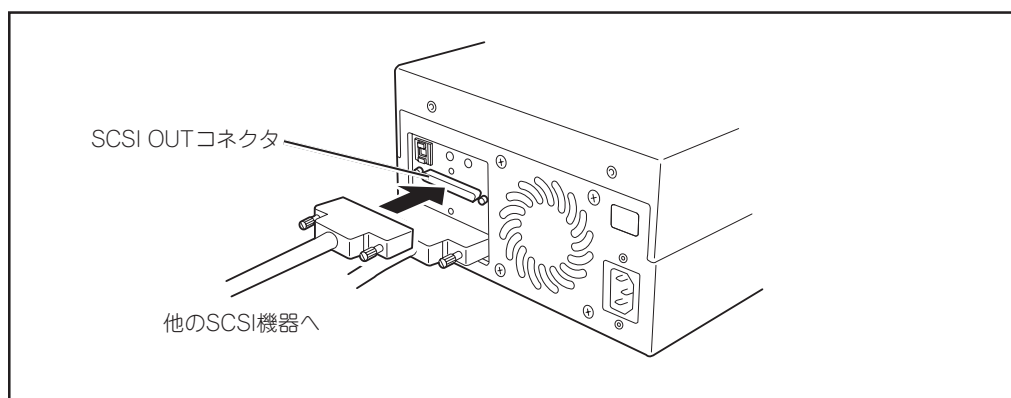
**注意****電源がONのまま取り付け・取り外しをしない**

本装置の接続を始める前に、必ず本装置およびサーバ/ワークステーションなど基本処理装置の電源プラグをコンセントから引き抜いてください。コンセントに差し込んだまま作業を行うと感電するおそれがあります。

次の図に示すようにサーバ/ワークステーションおよび周辺機器を本装置に接続します。はじめに、信号ケーブルを接続します。信号ケーブルは別売品です。本装置や接続する機器のコネクタやインターフェースの仕様に合ったケーブルを別途お買い求めください。

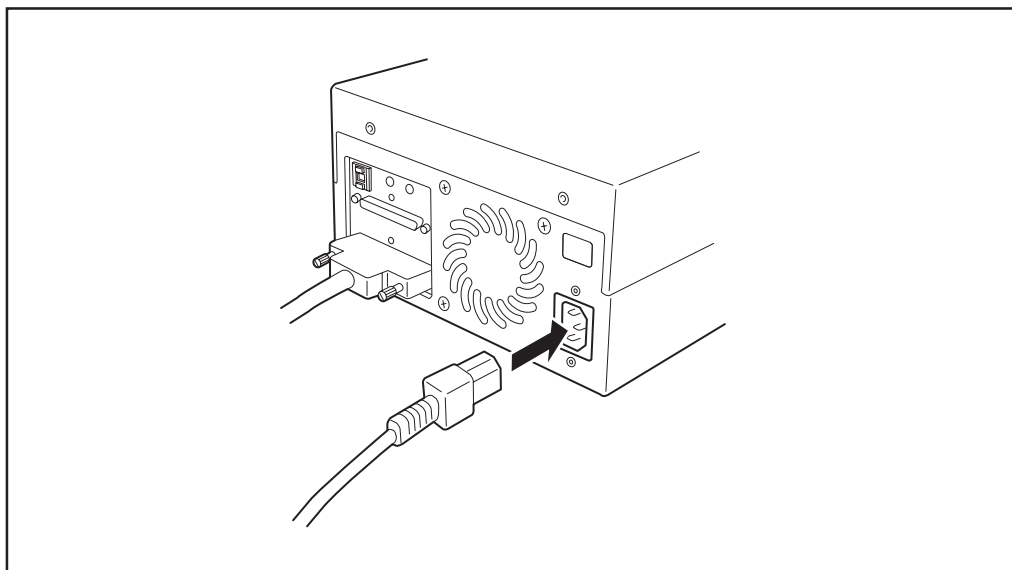


本装置から別のSCSI機器を接続する場合は、必ずSCSI OUTコネクタに接続してください。



- 基本処理装置からのSCSIケーブルはSCSI OUTコネクタに接続しないでください。エラーの原因となります。
- 本装置はSCSI OUTコネクタに何も取り付けられていない場合には時自動的に終端を有効に設定します。本装置が最遠端になっても終端抵抗を取り付けなくてください。
- ケーブルの接続を終えたら、接続にゆるみがないことを確認してください。信号ケーブルのコネクタには接続を固定するためにネジが付いています。ネジで確実に固定されていることを確認してください。

信号ケーブルの接続を完了したら、最後に添付の電源コードを本装置とコンセントに接続します。電源ON/OFFボタンがOFFになっていることを確認してから接続してください。



サーバ/ワークステーションのマザーボード上(またはSCSIコントローラ上)にあるSCSIコントローラのBIOS設定を変更します。設定の変更が必要なものは主に、転送速度の設定やUltra SCSIの機能を有効にする設定などがあります。

- 転送レート: 80MB/秒(最大、同期)
- データバス幅: 16ビット(Wide SCSI)
- DISCONNECT/RECONNECT: 有効

BIOSの設定はボード上のメモリ内に格納されているBIOSセットアップユーティリティ(SCSISelectなど)を使用します。BIOSセットアップユーティリティの起動方法やパラメータの一覧などについては、基本処理装置に添付の説明書を参照してください。



同一バス上に接続されているデバイス数およびSCSIケーブル長に合わせて、表に示す最大転送レートに設定してください。

SCSI	最大転送レート (Mbyte/s)	データバス幅 (bit)	最大ケーブル Single-ended (LVD*)	最大デバイス数 (SCSIホスト+ デバイス数)
Ultra2 Wide SCSI	80	16	12(-)	16
Ultra Wide SCSI	40	16	3 (-)	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5 (-)	8
Ultra Wide SCSI	40	16	- (3)	16
Ultra Wide SCSI	20	16	3 (3)	16
Wide SCSI	10	16	6 (3)	8

* SCSIホストおよび同一バス上の全デバイスがLVD対応の場合

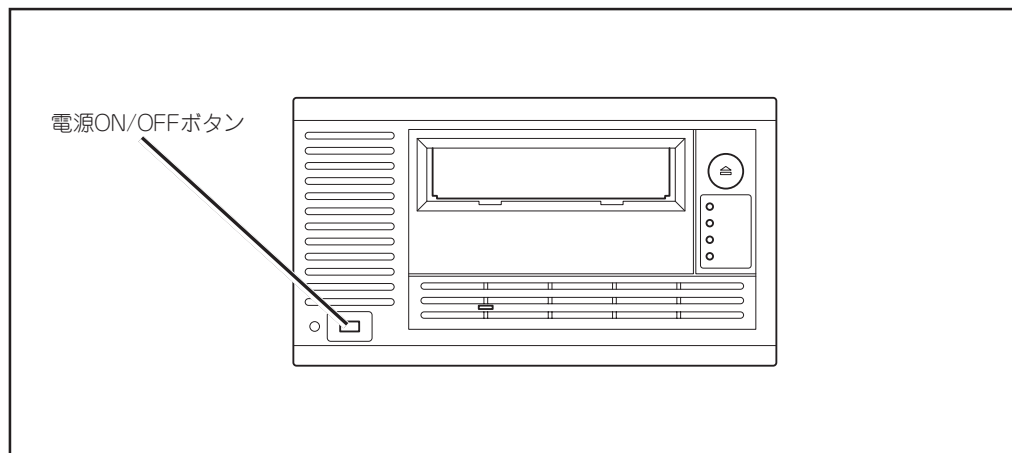
以上でセットアップは完了です。

第3章 使用方法

N8160-46 外付LTOを日常使用する上で知っておいていただきたい操作方法について説明します。

電源のON/OFF

本装置の電源のON/OFFは前面にある電源ON/OFFボタンを使用します。



本装置の電源をONにするときは、本装置（およびその他の周辺機器）、取り付けた基本処理装置の順に電源をONにします。

電源をOFFにするときは、データカートリッジを取り出してから取り付けた基本処理装置、本装置（およびその他の周辺機器）の順に電源をOFFにします。



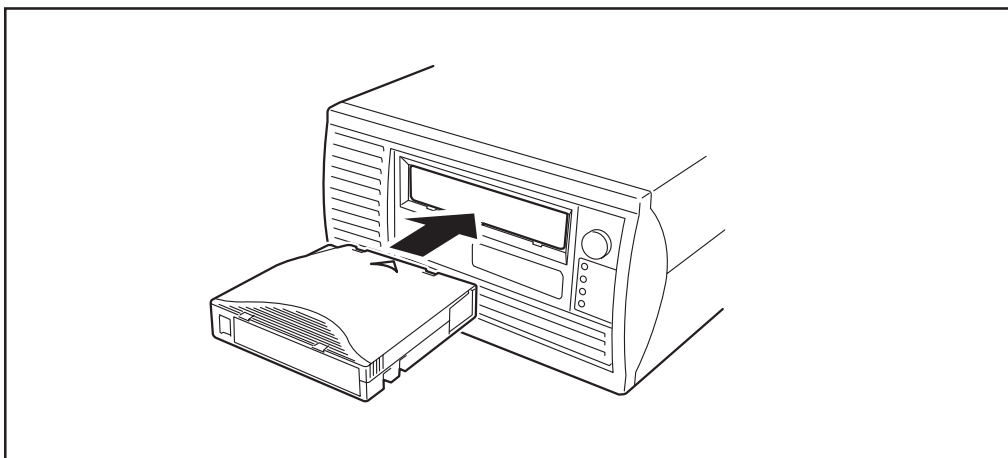
- 本装置は電源をONにすると自己診断を実行します（約5秒間）。診断中はステータスLEDが点滅します。他のLEDはすべて消灯します。診断が正常に終了すると、ステータスLEDが点灯します。診断に失敗した場合は他のLEDが点滅します。エラーの詳細は5ページを参照してください。
- 本装置の電源をOFFにする前にデータカートリッジを取り出してください。
- エラー発生後に本装置をリセットするには、電源を入れ直します。（いったん電源をOFFにしてから再度ONにします）。

データカートリッジの挿入

データカートリッジは、次の手順で挿入します。

1. 本装置の電源がONになっていることを確認する。
2. データカートリッジの書き込み禁止スイッチが正しくセットされていることを確認する(20ページの「ライトプロテクト」を参照してください)。
3. 書き込み禁止スイッチが手前に向くように、カートリッジを持つ。
4. カートリッジ挿入口にデータカートリッジをスライドさせて入れる。

カートリッジローダはカートリッジを本装置に引き込みます。



カートリッジを挿入した状態で書き込み禁止スイッチの設定を変更しても機能は変わりませんので変更しないでください。また、カートリッジを挿入したまま変更するとエラーの原因となるおそれがあります。



カートリッジがすでに排出位置にあり、そのカートリッジを再度挿入したい場合は、カートリッジをいったん取り出してからもう一度挿入します。

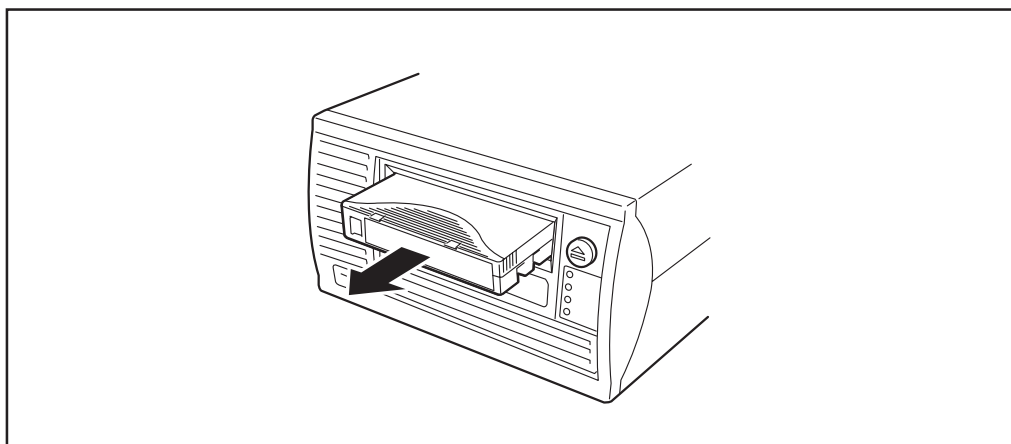
データカートリッジの取り出し



本装置の電源をOFFにする前に本装置の中に入っているカートリッジを取り出してください。カートリッジを取り出さないと、カートリッジやテープドライブに損害を与えるおそれがあります。

次の手順でデータカートリッジを取り外します。

1. 本装置の電源がONになっていることを確認する。
2. イジェクトボタンを押す。



3. カートリッジの一部が排出されたら、そのカートリッジを持って取り出す。

～Memo～

第4章 データカートリッジ

N8160-46 外付LTOで使用するデータカートリッジの取り扱い方法や注意事項について説明します。

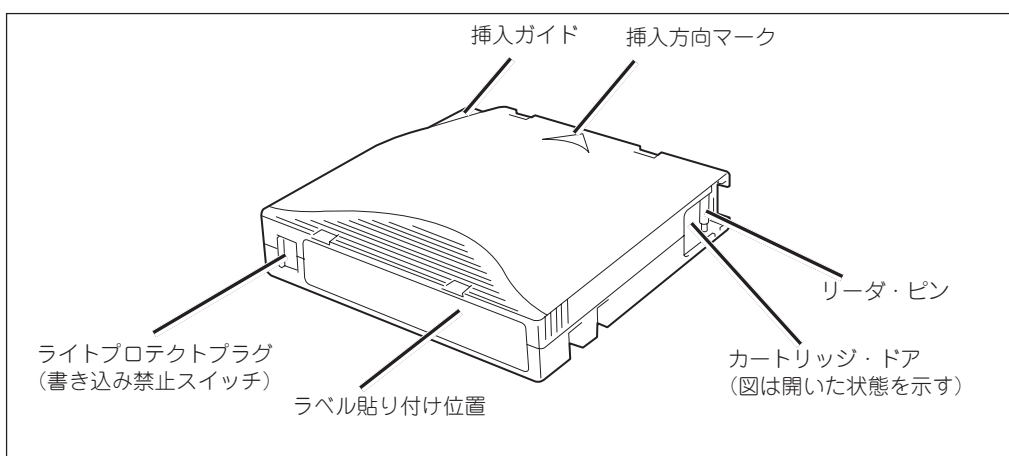
カートリッジについて

本装置では次のカートリッジを使用します。

- EF-2424 データカートリッジ
- EF-3237Q クリーニングカートリッジ

本装置の信頼性を確実に保つために、上記以外のカートリッジは使用しないでください。

下図にデータカートリッジの各部の名称を示します。



カートリッジ(EF-2424)

データカートリッジ(EF-2424)には、1/2インチのMPテープが入っています。このテープのデータ容量は100GB、圧縮容量は200GB(2:1圧縮を想定)です。テープの処理に際して本装置は、リニアのサーペント記録フォーマットを使用し、384トラックのデータの読み取りと書き込み(一度に8トラック)を行います。最初の8トラックのセットには、テープの始めの方からテープの終わりの方に書き込まれます。次にヘッドは、リターン・パスのために、次の8トラックのセットの位置変更を行います。すべてのトラックが書き込まれてテープがいっぱいになるか、すべてのデータが書き込まれるまで、この処理は続きます。

EF-2424データカートリッジには、リニア・テープ・オープン・カートリッジ・メモリ(LTO-CM)チップが付いています。このチップには、カートリッジとテープに関する情報(テープの製造元の名前など)と、カートリッジの使用に関する統計情報が入っています。データカートリッジをアンロードするたびに、本装置は、カートリッジ・メモリのすべての関連情報を書き込みます。

カートリッジ・ドアはカートリッジがドライブの外に出ているときにテープが汚れるのを保護します。ドアの後ろで、テープはリーダ・ピンに付いています。ドライブにカートリッジを挿入すると、スレッド機構はカートリッジからピン(およびテープ)を引き出し、ドライブ・ヘッドに渡して、取り外し不可能のテープ巻き取り機構のリールまでもってきます。以上で、ヘッドはテープからデータを読み取ったり、テープにデータを書き込んだりすることができます。

ライトプロテクトプラグ(書き込み禁止スイッチ)は、データカートリッジにデータが書き込まれないようにします。

ラベル貼り付け位置は、ラベルを貼り付ける場所です。ラベルを貼る際には、へこんでいるラベル域に収まるようにしてください。へこんでいる場所からラベルがはみでていると、内部ドライブや本装置そのものでロードの問題が生じるおそれがあります。

挿入ガイドは、お客様がカートリッジを誤って挿入することを防ぐ、大きな切り込みの入った部分です。

クリーニングカートリッジ(EF-3237Q)

ドライブにある、ヘッドのクリーニングをするためのカートリッジです。クリーニングLEDが点滅しているときに、このカートリッジを使ってクリーニングをしてください。ヘッドをクリーニングするには、EF-3237Qをカートリッジ挿入口に挿入します(14ページの図を参照してください)。本装置は自動的にクリーニングを実行します。クリーニングが終わると、本装置はカートリッジを排出します。



本装置で利用できるクリーニングテープはEF-3237Qのみです。他の型番のものは使用できません。(EF-3237PもLTOクリーニングカートリッジですが、本装置には使用できません。)



本装置は通常、クリーニングLEDが点滅していないときにクリーニングカートリッジを挿入してもヘッドをクリーニングしない仕様になっていますが、条件によってはヘッドがクリーニングされる場合があります。

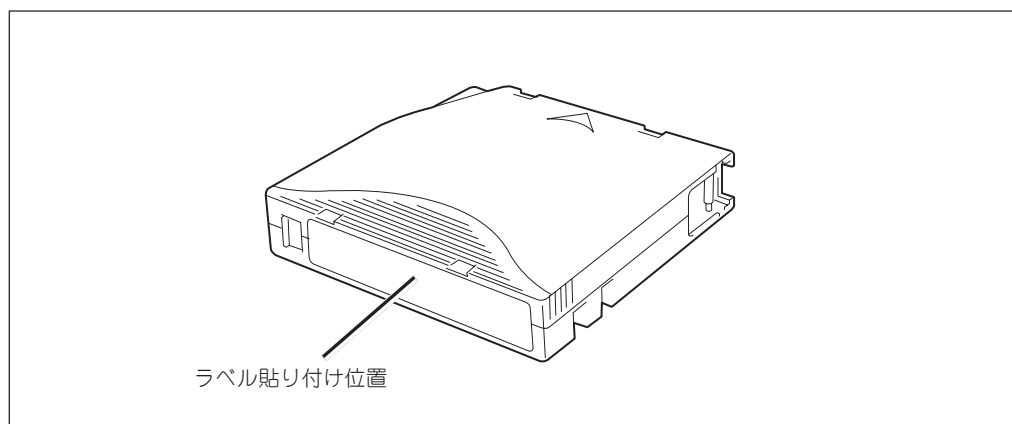
クリーニングされる条件

- 電源ON後、初めてクリーニングカートリッジを挿入した場合。
- 常時電源ONでも最後にクリーニングを行ってから336時間(2週間)以降経過している場合。

EF-3237Qは15回使用できます。カートリッジのLTO-CMチップは、カートリッジの使用回数を記憶しています。

ラベル

データカートリッジの中にどのファイルがバックアップされているか、また、いつバックアップをとったものかなどが一目でわかるよう、添付のラベルに必要事項を記載して下図のようにデータカートリッジに貼り付けておくことをお勧めします。

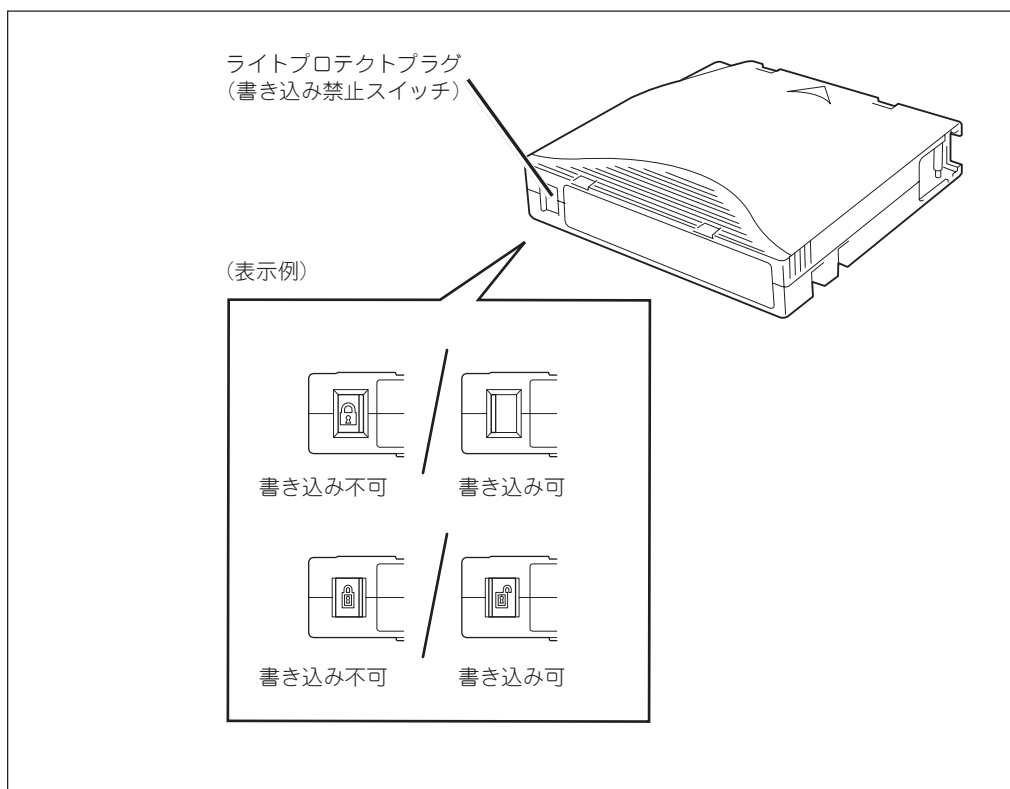


また、貼り付けるラベルについては次の注意事項を守ってください。

- ☐ データカートリッジの内容を表示するために用いるラベルは簡単にはがせるもので、はがした後に粘着物を残さないようなものを使用してください。
- ☐ 内容の表示を変更するときは、消しゴムで消さず、必ずラベルを貼り替えてください（INDEXラベルは、データカートリッジに添付されています）。
- ☐ ラベルを貼るときは、指定の位置に確実に貼り、さらに取り替える場合は、古いラベルを取り除いてから新しいラベルを貼ってください。
- ☐ 指定のINDEXラベル以外のものを使用する場合は、大ききの合ったものを使用してください。

ライトプロテクト(書き込み禁止スイッチ)

ライトプロテクトプラグ(書き込み禁止スイッチ)により、テープの内容を保護したり、上書きしたりすることができます。一度書き込んだデータを消去したくないときには、書き込みできないよう設定してください。ライトプロテクトプラグ(書き込み禁止スイッチ)の位置は同じですが、スイッチに刻印されている表示が異なる場合があります。詳しくはカートリッジ添付の取扱説明書を参照してください。



カートリッジを挿入した状態で書き込み禁止スイッチの設定を変更しても機能は変わりませんので変更しないでください。また、カートリッジを挿入したまま変更するとエラーの原因となるおそれがあります。

取り扱い上の注意事項

データカートリッジを取り扱う際の注意事項について説明します。

使用上の注意事項

- ☐ 使用する前
 - － カートリッジを開け、リーダピンが確実に固定されていることを確認してください。
 - － 使用するデータカートリッジが、破損していたり、変形したり、曲がっているときは使用しないでください。
 - － 装置の使用温湿度条件以外で保管されていたデータカートリッジを使用する場合は、使用温湿度条件外になっていた時間以上の間(最大8時間)、使用環境に持ち込んでから使用してください。そのとき、保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は一度に移動せず、温度変化が1時間に10℃程度になるように注意し、使用場所の温度にデータカートリッジをなじませてください。
- ☐ 本装置への装着時

データカートリッジを確実に挿入してください(詳しくは3章をご覧ください)。データカートリッジを取り出した保護ケースは、しっかりと閉じて塵埃の少ない場所で保管してください。
- ☐ 使用後

使用済みのデータカートリッジは必ず保護ケースに入れて塵埃の少ない場所で保管してください。置き方は水平、垂直を問いません。
- ☐ 廃棄方法

廃棄の際は、各自治体の廃棄方法に従ってください。

一般的注意事項

- ☐ テープ自体(磁性面)に手を触れないでください。
- ☐ 磁気の発生するものを近づけないでください。
- ☐ 直射日光や暖房器具の近くには置かないでください。
- ☐ 強い衝撃を与えないでください。
- ☐ 飲食・喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。また、シンナーやアルコールなどが付着しないように注意してください。
- ☐ 使用後は必ずケースに入れて保管してください。
- ☐ 装置にはていねいに挿入してください。
- ☐ データカートリッジは、ゴミやほこりを嫌います。

使用禁止基準

次のいずれかの項目に該当する場合は、そのデータカートリッジの継続使用を禁止し、新しいデータカートリッジに取り替える必要があります。

- ☐ 落下させるなどの強い衝撃を与えデータカートリッジが損傷を受けた場合
- ☐ 清涼飲料、コーヒー、紅茶などの液体、溶剤や金属粉、たばこの灰などで記録面が汚れている場合



上記に示すデータカートリッジを使用するとヘッドや装置を損傷したり、汚したりすることになり、装置の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れや損傷に気づかず、そのまま新しいデータカートリッジを装置に挿入すると、新しいデータカートリッジを汚したり、傷つけたりして被害を広げるおそれがあります。

寿命

データカートリッジの寿命は使用環境によっても異なりますが、以下を参考にしてください(温度・湿度・塵埃等の使用環境によって、目安より短くなることがあります)。

- ☐ 新しいデータカートリッジを使用するときに、管理番号を割り当て、その番号をデータカートリッジのラベルに記入しておくとい良いでしょう。
- ☐ データカートリッジ管理番号台帳を作り、使用日を記録し、データカートリッジの使用年数と使用回数を見積もります。
- ☐ 定期的にデータカートリッジの管理台帳と標識ラベルを調べ、手元にあるデータカートリッジが長く使用され、書き込み、読み取りエラーが発生したりして信頼性が低い場合は、データカートリッジを廃棄処分にします。

重要なデータの保存について

重要なデータ、またはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副2巻に保存することをお勧めします。また、保存する際にはバックアップソフトのペリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ペリファイ機能の利用方法については、各バックアップソフトの取扱説明書を参照してください。こうしておけば、もし一方のテープがゴミ、または塵埃などによってリードエラーを起こしたとしても、もう一方のテープから復旧でき、大切なデータ、およびプログラムの消失を防げます。

データの3世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合には、保存されたデータの3世代管理をお勧めします。これはテープを3巻(A、B、C)使用して、1日目はテープAにディスク上のデータを保存したならば、2日目にはテープBに保存し、3日目にはテープCに保存し、A→B→Cと順番にテープ上にディスク上のデータを保存していくものです。こうしておけば、例えば一巻のテープCがリードエラーを起こしたとしてもテープBのデータを使用すればデータは復旧可能であり、また万一、テープBがリードエラーを起こしたとしてもテープAのデータを使用することで大切なデータは復旧可能となります。

データカートリッジの保管について

- ☐ 決められた保管条件を守り、保管場所を常に清潔に保ってください。
- ☐ 書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。
- ☐ 長期間にわたって保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行うことをお勧めします。
- ☐ 万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。正副2巻のデータカートリッジがある場合には、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくとともに効果的です。

～Memo～

第5章 日常の保守

N8160-46 外付LTOを常にベストな状態で使用できるようにするための保守の方法について説明します。



煙や異臭、異音がしたまま使用しない



本装置が万が一破損した場合、もしくは異音や異臭が生じた場合には、回路部分のショートや感電を防止するためにも、すみやかに電源スイッチをOFFにして、本装置の電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。

クリーニング

本装置および内部のヘッドをクリーニングする方法について説明します。

本体のクリーニング

本装置の外観の汚れは、やわらかい布に水、または洗剤を含ませて軽くふいてください。



ベンジンやシンナーなど(揮発性のもの)の薬品を用いてふくと、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤などをかけると変形や変色の原因となることがあります。注意してください。

ヘッドの清掃

クリーニングは、テープ走行によって生じるゴミや使用環境のほこりによる磁気ヘッド部分への汚れを取り除く大切なものです。磁気ヘッド部分が汚れたまま書き込み／読み取りなどを行うと正常に書き込み／読み取りができなくなる、データカートリッジの寿命が短くなる、テープ表面に傷が付き使用できなくなるなどの障害が発生します。



本装置のドライブ・ヘッドをクリーニングするときは、クリーニングカートリッジ(EF-3237Q)を使用してください。他のクリーニングカートリッジを使用しないでください。

クリーニングLEDが点滅しているときは必ず本装置のドライブヘッドをクリーニングしてください。ヘッドをクリーニングするには、クリーニングカートリッジをカートリッジ挿入口に挿入します(14ページの図参照)。クリーニングは自動的に実行され、約1分～10分で終了します。本装置のクリーニングはクリーニングカートリッジの使用回数が増えるほど、クリーニングにかかる時間が増えます。クリーニング1回目のクリーニングカートリッジでは約1分で終了し、15回目では約10分かかります。クリーニングが終了すると、本装置はカートリッジを排出します。



本装置で利用できるクリーニングテープはEF-3237Qのみです。他の型番のものは使用できません。(EF-3237PもLTOクリーニングカートリッジですが、本装置には使用できません。)



本装置は通常、クリーニングLEDが点滅していないときにクリーニングカートリッジを挿入してもヘッドをクリーニングしない仕様になっていますが、条件によってはヘッドがクリーニングされる場合があります。

クリーニングされる条件

- 電源ON後、初めてクリーニングカートリッジを挿入した場合。
- 常時電源ONでも最後にクリーニングを行ってから336時間(2週間)以降経過している場合。

EF-3237Qは15回使用できます。カートリッジのLTO-CMチップが、カートリッジの使用回数を記憶しています。

輸送について

本装置を輸送する場合は、購入時の梱包箱と梱包材で装置を梱包してください。梱包材がない場合は、輸送の際に装置に衝撃を与えないよう緩衝材などを使って装置を梱包してください。



データカートリッジは必ず本装置から取り出しておいてください。

付録A 仕 様

装置本体

■ データ記憶内容

（下記は理論値であり、データによっては記載内容を下回る場合があります。）

最大データ記憶容量	100GB（圧縮時200GB*）	EF-2424を使用
-----------	------------------	------------

*圧縮効率を2:1としたとき（圧縮効率は圧縮するデータによって異なる）

■ 転送速度

（下記は理論値であり、システム構成、使用するアプリケーション、動作環境によって下回る場合があります。）

データ転送速度(Tape)	15MB/秒（最大）
データ転送速度(SCSI)	LVD：80MB/秒（同期） S E：20MB/秒（同期）、6MB/秒（非同期）

■ 環境条件

状態	周囲温度	相対湿度	最大湿球温度
動作時	10℃～35℃	20%～80%	26℃（結露なきこと）
運搬時	－40℃～60℃	10%～90%	26℃（結露なきこと）
保管時	－40℃～60℃	10%～90%	26℃（結露なきこと）

■ 電源仕様

電圧	AC100～240V
周波数	250/60Hz共用
最大皮相電力	67.8VA
最大消費電力	40.3W

■ 寸法・重さ

幅	208mm
高さ（脚含む）	122mm
奥行き	298mm
質量	約5.3kg

データカートリッジ

■ 使用条件

項 目	条 件
温度	10℃～45℃
湿度	20%～80%（ただし、最大湿球温度を26℃とする）
放置時間	使用および保管環境条件以外の環境にデータカートリッジがさらされていた場合には、使用および保管環境条件以外の環境にさらされていた時間以上（最大8時間）、使用環境になじませてください。温度勾配は10℃/時間とします。

■ 保管条件

項 目	条 件
温度	16℃～32℃
湿度	20%～80%（ただし、最大湿球温度を26℃とする）
保管状態	データカートリッジは保護ケースに入れてフタをして保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

■ 運搬条件

項 目	条 件
温度	－23℃～49℃
湿度	20%～80%（ただし、最大湿球温度を26℃とする）
温度勾配	10℃/時間
運搬状態	データカートリッジを保護ケースに収納し、ビニール袋等に入れて密封してください。輸送の場合には、さらに段ボール箱に入れてデータカートリッジに力が加わらないように包装してください。

付録B 運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項 目	記入欄
取り付けた装置のモデル名	
オペレーティングシステム（OS） （名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況）	
バックアップアプリケーション （名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況）	
SCSIバス構成（SCSI ID/同一バス上のデバイス）	
装置設置環境（温度、湿度、ホコリの状況など）	
カートリッジ種類 （メーカー名、EF型番）	
クリーニングカートリッジ種類 （メーカー名、EF型番）	
クリーニングカートリッジ使用状況（使用回数や使用開始月の管理方法など）	
カートリッジ使用状況（使用回数や使用開始月の管理方法など）	
カートリッジの管理状況	

付録C トラブルシューティング チェックリスト

本製品が思うように動作しない場合は、修理に出す前に以下のチェックリストの内容に従って本製品をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、処置に従ってください。

項番	症状	処置
1	☐ ドライブの電源が入らない。 ☐ LEDが点灯しない。	☐ ドライブに電源コードが正しく接続されていることを確認してください。 ☐ 電源コードがコンセントに接続されていることを確認してください。
	☐ システム起動時にドライブが正しく認識されない。	☐ ドライブにSCSIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ☐ SCSIケーブルが正しくSCSI I/F（SCSIボードのコネクタ、MBのコネクタなど）に接続されていることを確認してください。本装置のSCSIコネクタは“IN”と“OUT”で接続するデバイスが異なります。 ☐ 同一SCSIバス上の他のドライブとSCSI IDが重複していないか確認してください。 →同じSCSI IDのドライブがある場合、どちらかのIDを未使用の番号へ変更してください。（“7”はホスト側が使用しているため、割り当てないでください。）

項番	症状	処置
2	☐ システム起動時にドライブが正しく認識されない。	☐ 終端抵抗が正しく接続・設定されていることを確認してください。 → 終端抵抗はSCSIバスの両最遠端に接続されている必要があります。 ・ 最遠端が本装置の場合 SCSI OUT コネクタには何も取り付けないでください。本装置は自動的にSCSIの終端を設定します。 ・ 最遠端が外付型ドライブの場合 終端コネクタが接続されていること、または他のドライブの終端抵抗設定がONになっていることを確認してください。 ・ 最遠端がSCSIボード（MB）の場合 SCSI BIOSなどで正しく設定されていることを確認してください（それぞれの取扱説明書を参照してください）。 ・ 最遠端でないドライブの終端抵抗がONになっていないことを確認してください。 ☐ SCSIコネクタのピンが折れていないことを確認してください。また、折れたピンを元に戻して使わずに、ドライブ、あるいはケーブルを交換してください。 ☐ SCSI BIOSの設定が正しいことを確認してください（取扱説明書に設定方法がか書かれている場合は参照してください。SCSI BIOSが変更できないものもあります。） ☐ システム構成上、正しい位置に接続されていることを確認してください。
3	☐ OS起動後にドライブが正しく認識されない。 （システム起動時には正しく認識されていた。）	☐ デバイスドライバが正しくインストールされていることを確認してください。 → 自動的にインストールされる場合と、手動でのインストールが必要な場合があります。また、デバイスドライバが製品に添付されている場合があります。ドライバディスクに添付の説明書を参照してください。 ☐ デバイスドライバが正しく起動していることを確認してください。

項番	症状	処置
4	☐ 正しくテープを認識しない。 ☐ 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトはドライブを正しく認識している。)	☐ クリーニングテープでヘッドのクリーニングを行ってください。 ☐ データカートリッジを新品と交換してください。 ☐ 正しいデータカートリッジを使用しているか確認してください。 ・動作が保証されているテープ（EF型番テープなど）であることを確認してください。 ・寿命に達したテープを使用していないことを確認してください。 ・エラーの発生していたテープを使用していないことを確認してください。 ☐ SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗などの接続に問題がある可能性があります。 ☐ 温度・湿度の異なる環境から持ち込んだドライブは、使用環境に十分なじんでない場合があります。環境になじませてから使用してください。 ☐ 空調管理の行われていない環境ではドライブが環境になじんでいない場合があります。システム起動直後のバックアップは環境に十分なじんで行うように運用の変更を行ってください。（夜間のシステム起動・バックアップ開始などで起こりうる問題です。）
3	☐ 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトがドライブを正しく認識していない。)	☐ バックアップソフトが正しくインストールされていることを確認してください。 ☐ SCSIバス上の他のデバイスとIDが重複していないことを確認してください。 ☐ ソフトウェア同士の競合が発生していないことを確認してください。 →同時に使用できないデバイスドライブが組み込まれている場合に片方のドライブを外す必要のある場合があります。詳しくはソフトウェアの説明書を参照してください。 ☐ SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗の接続に問題があるおそれがあります。 →もう一度接続を確認してください。

項番	症状	処置
6	☐ 正しくバックアップができない。 (ドライブエラーLEDが点滅している)	☐ 5ページにLEDの表示に関する説明があります。参照してください。 → ・クリーニングの要求を示している場合は、クリーニング後にバックアップを行い、再発するようであればデータカートリッジの交換を行ってください。 ・エラー表示の出ている場合はドライブに何らかの不具合を生じていることが考えられます。ドライブの保守を依頼してください。
7	☐ テープが取り出せない。 (データカートリッジの場合)	☐ バックアップソフトで自動排出を設定しても排出されない場合は、正しくバックアップできていないことが考えられます。 → 項番4～6を参照してください。 ☐ ドライブのイジェクトボタンを押してもテープが排出されない場合は、バックアップソフトによるソフトウェア的なロックが機能している可能性があります。 → ・ソフトウェアを終了してください。 ・システムを再起動してください。 ・電源のON/OFFを行ってください。 ☐ ドライブが何らかの不具合を検出して排出させないようにしていることが考えられます。 → ・イジェクトボタンを5秒以上押し続けて強制排出を試してください。 ・システムを再起動してください。 ・電源のON/OFFを行ってください。 ☐ テープがドライブ内で絡まっていること (テープジャム) が考えられます。 → ・イジェクトボタンを5秒以上押し続けて強制排出を試してください。 ・テープジャムを起こしたドライブは、内部のヘッド、ドラム、各ガイドピンなどを傷めていることが考えられるため、ドライブ交換を行ってください。

項番	症状	処置
8	☐ テープが取り出せない。 (クリーニングテープの場合)	☐ 使い切ったクリーニングテープを挿入した場合やあるいはクリーニング中に使い切ったため正常にクリーニングが終了しなかった場合に、それを知らせるためにクリーニングテープが排出されないドライブがあります。 →イジェクトボタンを押してクリーニングテープを取り出し、新しいクリーニングテープでクリーニングを再度行ってください。
9	☐ テープが排出される。 (データカートリッジの場合)	☐ 正しいデータカートリッジを使用しているか確認してください。 ・動作が保証されているテープ（EF型番テープなど）であることを確認してください。 ・寿命に達したテープを使用していないことを確認してください。 ・エラーの発生していたテープを使用していないことを確認してください。 ☐ ヘッドが汚れているおそれがあります。 →ヘッドが汚れていた場合、書き込み／読み取り時に失敗し、テープを排出する場合があります。クリーニングを行ってください。
10	☐ テープが排出される。 (クリーニングテープの場合)	☐ クリーニングテープを使い切っているおそれがあります。 →新しいクリーニングテープに交換してください。

N8160-46
外付LTO取扱説明書

2002年6月 初版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03)3454-1111(大代表)

© NEC Corporation 2002

日本電気株式会社の許可なく複製・改変など行うことはできません。
